

令和5年度 第2回しが子ども読書活動推進協議会 議事概要

日 時：令和5年9月12日（火）14：00～16：00

会 場：滋賀県庁北新館5階 5-A

出席者：小野田会長、藤内委員、市島委員、上田委員、橘委員、中島委員、宇都宮委員、小林委員（代理：池上副主幹）、秦委員、堀出委員、横井委員（代理：松島指導主事）、澤委員（同席：下村指導主事）、左谷委員（代理：廣部指導主事）、村田委員（代理：林課長）、廣瀬委員

事務局：生涯学習課 青根参事、上井主幹、堀田主査、藤本社会教育主事、玉利主任主事
（※傍聴、取材：なし）

1 開会

生涯学習課長挨拶

- ・お集まりいただいたことへのお礼
- ・「こども としょかん」の目指す姿、「第5次滋賀県子ども読書活動推進計画」（骨子案）について、皆様の御意見等を賜り、考えてまいりたい。
- ・関係部局からの資料・説明もある。
- ・「滋賀ならではの『こども としょかん』」として、県民みんなで進めていけるよう皆様からの意見や視点を大切にしていきたい。

事務局より

- ・配付資料の確認

幼小中教育課より説明 参考資料4参照

- ・子ども読書活動に関わる取組等の現状について

子ども・青少年局子育て支援室より説明 参考資料5参照

- ・就学前の子どもの読書環境について

滋賀県立図書館より説明 参考資料7参照

- ・「出張こども としょかん」報告について

2 議題

(1) 「こども としょかん」の目指す姿

(2) 第5次滋賀県子ども読書活動推進計画（骨子案）

○事務局より説明 別添資料1～資料2参照

- ・「～滋賀ならではの『こども としょかん』を目指して～」のサブタイトルや目指す姿について、新しく入れている。
- ・追加・変更点については、太字・下線になっている。
- ・「こども としょかん」イメージ図を入れてはどうかと考えている。
- ・「基本的方針」には「こども としょかん」コンセプト案の4つのコンセプトを入れている。
- ・「重点的に取り組むべき事項」は委員の皆様の意見も入れてこの3つにした。
- ・第4章で、これまで「学校等」とひとくくりになっていたところを「幼稚園・保育所・認定こども園」を特出しにしている。
- ・「指標の設定」に関しては、本日の議論を受けて今後提案させていただく。
- ・参考資料に県内の取組事例を入れてはどうかと考えている。
- ・変更点を中心に伝えましたが、今回は特に第3章を中心に御協議をお願いしたい。

○質問・意見

- 会長
- ・第3章を中心に論議してほしい。
 - ・幼小中教育課へ。学力・学習状況調査に関して、3つの項目について下がっているのは何か原因があるのか
- 澤
- ・学力・学習状況調査の結果を上げているが、1%~2%の差であることから、経年的に見ることも大事。
 - ・数値の裏にある要因は十分に把握できているものではない。
- 上田
- ・目指す姿の「人々の関わりにより本に親しみ」の「より」について、「より本に親しみ」ではなく「関わりにより」でよいか。
 - ・県立図書館に全県ネットワークがあるというのをに入れてはどうか。
 - ・第4章 [4] (4) 「教員、保育士等の理解や技能の向上」の項目がよい。
 - ・センター機能の付与は素晴らしいこと。
 - ・絵本の選び方をどのようにしたらいいかわからない人もいるので、ボランティアだけではなく、専門家に聞ける機会があるのが大事なこと。
- 会長
- ・県立図書館にセンター機能を付加することについてはどうか。
 - ・学校における重点にさらに加える必要はないか。もう少し議論したい。
- 藤内
- ・毎年、講師として幼稚園や認定こども園の先生に実践講習をしているが、保育園の先生は講習を受けていないらしい。以前は、小学校の新任教員に対してもやっていたが、今はなくなっていることが残念。
- 会長
橘
- ・3つの柱の重点について この案のままでよいか。
 - ・計画は時間をかけて進化させるものでないか。今回、一度にやるとなると焦点化できなくなると考えるため、案に賛成。
- 宇都宮
会長
- ・橘委員の意見に賛成。今回はこれに絞って3つというのは大変いい。
 - ・重点は絞るといふ意見をいただいた。ここで決めるというよりも、ここで御意見をいただき事務局が練っていくので、御意見を言っただけければ。
- 中島
- ・今の課題3つが盛り込まれているので賛成。「環境整備」「人が関わっていく、人が必要」「図書館は居場所」大事なところが盛り込まれていて、各委員の意見を聞き、妥当と考える。
- 会長
- ・専門家による技能向上の機会を学校にも取り入れるべきでないか。
 - ・先生の研修の機会を増やすことは可能か、働き方改革のことも含めて。
- 中島
- ・研修の有効性は感じるが、研修を増やすのは難しい。
 - ・夏休み等の研修は、学校が何を大事にするかということで学校ごとに考えていくこと。経験から研修の有効性は一定あると感じる。
- 会長
- ・限定的なテーマでなく、学校の課題に応じたテーマでのアプローチが望ましいという考え。
 - ・学校のニーズや学校の大きな研究テーマと関わって、図書館をリンクさせる等して工夫していく。
- 藤内
- ・夏の研修で選択できるのはよい方法。バラエティーに富んだ研修が開かれることを期待する。
 - ・ブックトークを知りたい、読み聞かせを知りたい等バラエティーのある研修を開いて選んでいただけるといい。ぜひやってほしい。
- 市島
- ・子どもたちに一番接するのは一般の教師。全ての教師が読書活動の重要性を実感していないと子どもたちに働きかけるのは難しい。本は楽しい、本で心が落ち着くなど。不登校の問題などの教育相談に関わる人にも本のよさを感じてほしい。
 - ・先生が、学校図書館や読書活動について実感してもらえる研修の場が必要。

- ・学校司書は、週に1回程度の配置では不十分。
 - ・本当に子供の読書活動を推進するのであれば、ひとづくりについてしっかりやらないといけない。
- 会長
- ・外部委員として入っている人もいると思う。人が入ることによって子どもが喜ぶ以外の効果について感じることはないか。
- 藤内
- ・先生方が忙しく、なかなか話す機会がない。
 - ・「戦争の話は高学年にいい。」等、先生方からの意見を聞くことはいいと思うので、毎回、先生から話を聞くことにしている。
 - ・子どもと先生がお話を共有することもよい。私たちは自信をもってやっている。
- 会長
- ・子供の読書活動を支えるのは、まずは先生という市島委員の意見だったが、外部の人の力を借りて関わることも大事ではないか。
- 上田
- ・日頃から職員室や校長室で先生とフランクに話せるところもある。話し合う会を設定しているところや、終わってすぐ話を聞きに来るところもある。「あの子のあんないい顔が見られた」等、外部の人が関わることで風通しがよくなるなどの声も聞く。
 - ・近江八幡市での学校図書館研修会で、小野田先生も来てくださった。ボランティアだけではなく、現場の先生、学校司書たちと話をすることができた。
 - ・授業でどんな本を使うかを学校司書に相談するには、週1ではなかなか話す時間もない。人間的なつながりの意味でも気軽に頼めない。
 - ・短時間勤務では、学校司書が教員に相談するには時間が足りず、関係性を構築するのも難しいのが現状。
 - ・調査結果で学校司書の配置が0のところはどのようにカバーされているのか聞いてみたい。
- 中島
- ・本市では学校司書さんが週2でほぼ一日いてくださる。朝も放課後もいてくれる。担任も相談できる。朝の読書にも一緒に来てくださる。すごくありがたい。
 - ・私たちがどんな本を選んだらよいか教えてくれる。並行読書についても教えてくれる。選書をしてくれる。学校司書の専門性が非常に高く、いつも助けられている。担任を助けたり、子どもたちの読みを広げたり。学校司書がブックトラックを教室の前に置いて、本を並べてくださっている。
 - ・動物愛護週間として、かわいい動物の本や秋のもみじの飾りなど、子どもが学校図書館に来たくなる工夫をたくさんしてくださっている。
 - ・うちは一日来ていただいているが、一日を通して来ていただけることで子どもとの時間もうまれている。
- 会長
- ・もっと時間がある。関係性の問題もあって、もっと来てもらえるシステムがある。読書ボランティア等の研修も考えていけないといけない。
- 藤内
- ・お話会で使う本や関連本を学校司書がそろえておいてくれたり、読んだ本のコーナーを作ってくれたりしている。
 - ・たまたまお礼を伝えることができたが、いつもはファックスだけを送って、十分にお話できていないのもったいない。
- 市島
- ・近江八幡市の中学校で、学校図書館を使った授業を組み立てることにチャレンジした例。週1回の勤務だったので、3か月かかって、図書館を使った授業を実現。
 - ・今年は、週2回の学校司書配置で、年に1回はどの教員も学校図書館を使った授業づくりに取り組んでいる。
 - ・国語だけではなく、他の教科でも学校図書館活用ができる。

- ・学校司書がもっといれば、もっと子どもたちが読書活動を楽しめる。
 - ・ブックトーク等たくさんの読書活動の手だてがあることを知らないでいる先生がいる。研修の機会が様々あるとよい。
- 橘
- ・先生方は小学校でいえば、教科ごとに部会がある。学校の中だけではなく、市町の単位、県の単位、他の学校とつながっていく。紀要なども作られている。それを学んだ先生がいるが、軽く伝達して終わりになってしまうと、学校に広がらない。しっかり学校に広げていくことが大切。
 - ・知るだけでも自分の授業に生かせるし、「学校司書がほしい。」「こういうことをしたい。」という思いになるのではないか。学校の様子を聞かせてほしい。
- 会長
- ・かつて校長をした経験からお話する。
 - ・小学校国語の部会があり、学校に戻ると研修の内容を伝達するが、全教科、図書館等全部は伝えられない。学校の経営方針で取捨選択されることになる。どちらかという、学校図書館の研修を聞いてこられると、「捨」の方になっていることが多かったのでは。
- 橘
- ・読書が重要な観点であると考えため、学校の中で「捨」でなく「取」になる手立てはないか。
- 会長
- ・学校訪問の聞き取りの一つにしてもらうことも、刺激を与える一つになるかも。
- 上田
- ・すごく分かるが、学校の状況を考えると難しいなと感じている。
 - ・全県的な情報共有ができるためのネットワークが大事だろう。
 - ・こんないいことがある、メリットがあると先生に感じてもらう。「学校司書がほしいよね。」「学校図書館はやっぱり大事だよね。」という声が広がっていけばいい。重点化されていけばいいと思う。
 - ・お金も人も時間もいる中で、読書に力を入れれないといけないという声に盛り上がっていくと嬉しい。
- 会長
- ・居場所としての図書館について。PTAが悩みを抱えている。「こども としょかん」としてできることはないか。
- 橘
- ・子どもや子育て世代が集まれる場所がないので、公共図書館が居場所になるのはいいと思う。
 - ・昼間は子どもが来て騒がしくしていると年配の方に嫌な顔をされたりする。
 - ・時間を分ける図書館もあると資料にあったので、子どもや子ども連れが安心して来られる時間をつくるのもよい。その施設の中で、何か子育て世代が本は読まないがそこにいられる時間があれば、とりあえず図書館に行ってみようとなる。
- 宇都宮
- ・全ての人が「用事がなくても図書館に行ってみよう。」となってくれるのが理想の公共図書館。いろんな方がいるので、ぶつかるころはあるかもしれないが、公共図書館はみんなのもの、みんなが使えるところなので、ある程度は我慢してもらったり、公共図書館が調整していきたい。
- 会長
- ・学校図書館の機能強化には私自身もずっと取り組んでいる。
 - ・「学習センター」「情報センター」としての機能もあるが、「読書センター」としての機能だけに目を向けられがち。この2つもあるということに目を向けてもらう。
 - ・授業改善をしてもらう。「読み解く力」＝「主体的・対話的な学び」＝「学校図書館を活用しての授業」。
 - ・イメージ図の丸を琵琶湖の形にしてはどうか。子どもが真ん中において、見守る人がいて、滋賀県全体でやるということを示してはどうか。
 - ・目指す姿について御意見を。

- 宇都宮
- ・支援センターによる総合調整について。県立図書館がこれをするともみられないか。公共図書館の司書だけがしては、学校としては使い勝手が悪いものになる。学校の先生なり、学校教育の専門家がいてくれないと。県立図書館がするのではなく、県がするセンターを県立図書館に置くということを確認したい。
- 廣瀬
- ・新聞に掲載された件については案であり、検討中のもの。
 - ・センター機能を付与するというのは、どんな機能を付与していけばいいのかも聞きしながら考えていくこと。県立図書館だけでやるとか、どこかの市町だけでやるとのことではない。みんなで一緒にやるということ。
- 会長
- ・ある小学校の例。学校司書が本を紹介する授業があった。最初のクラスは図書室でしなければいけないという頭。どんどん本を紹介していくが、地べたに座った子どもたちは集中できない。ちょっとこのままではとなって、話をさせてもらった。同じ内容を数日後、違うクラスで行った。教室で担任の先生と掛け合いをしながらだと、子どもたちの話を聞く姿勢ができる、プリントに書く環境がある。前後のクラスで読みたくなった本の数が全然違った。
 - ・学校司書だから、学校のことを全部知っているわけではない、担任がどういう授業をしたいか、学校司書としっかり話し合っていていかないといけない。教員の発想で「どういう授業をしたい。こういう学校にしていきたい。」というのが必要。センター機能においてもこれが大切だと思う。
- 池上
- ・委員の声を聞いていて、ひとつづくりの話が半分以上あったので、重点の一番上にあっても良い。
 - ・イメージ図について、この輪の中にもっと身近な人であるクラスメイト、つまり、隣の子がちょっと本を読んでいたら、その隣の子の影響が、学校司書の影響を超えると考えたら、「隣の友達」を加えてもいいのでは。
 - ・「どうして読まないの?」「なんで学校図書館に行かないの?」という問いの答えは子どもの中にある。
 - ・ひとつづくりのことをたくさん聞いたので、一番上に人が来てもいいと感じた。
- 秦
- ・学校図書館の話が多かったが、公共図書館が友達と一緒にいくという場所になるといい。なかなか友達と一緒にいって、わあわあ本を読むところではない。騒がしくてもよいという時間をつくるというアイデアも出ていたが、居場所という意味で、いろいろな人が気軽に行けるようにしては。
 - ・図書館へは、小さい子どもは親と一緒にいくのがスタート。親が図書館に行くきっかけについて、また、行かないバリアを見つけることについても検討してもよいのでは。
- 堀出
- ・第4章で「幼稚園・保育所～」を特出ししていただいた。前回の計画では、重点に「就学前からの読書習慣の形成」があったが、今回は重点から抜けているので残念。
 - ・保育園・乳幼児期の子どもが本に親しむことが入り口であってほしい。
 - ・あるエピソードから、タブレットの音声で本（電子書籍）の読み聞かせをしている親の話を聞いたが、それでは愛情が伝わらないのではないだろうか。
 - ・読書に関しては就学前の環境整備も必要。
- 会長
林
- ・事務局で再度整理を。関係課の方の御意見も聞きたい。
 - ・公共図書館について。子育て世代の方にお話を聞くと、「声を出してはいけないと思っていた。」とのこと。公共図書館がどのような場所で、どのように使える場所かが十分に知られていないということが分かった。その後ろに使おうと思っておられない方、意識自体されていない方もいる。

- 藤内
 - ・公共図書館はこういう場所であるということはどうやって広めていけばいいのかと悩んでいる。どのように広めていくかが大きな課題だと考えている。
 - ・金沢の県立図書館がすばらしい。外へ出て泥遊びをしてもいい。ちゃんと手洗いをして中で本を読む。アスレチックや遊具もある。他にも関西にないか調べてみたらある。託児(有料)のところもある。上の子をあずけて、下の子と本を読むなど。子どもが騒がしくしてもよいところ。今はいろいろある。参考にしていればよかった。
- 廣部
 - ・ひとづくりの話がでてきた。障害のある児童の中には、なかなか自分から本と関われない子もいる。つないでくれる人が必要。重度の児童には、先生方が劇で子どもたちに繰り返し見せる授業をしたり、視覚障害のある児童が点字で本を読む楽しさを知って、本を取り寄せたりしたということもある。
- 澤
 - ・学校図書館の機能や読書活動について、あまり進んでいないという話題が多かったようだが、教員自身が研修を希望し、学校司書をお願いして読み聞かせ等について学ぶ例もある。学校司書と普段からいろんなやりとりもしている。
 - ・学校司書の資質能力と教員が声をかけられる環境が大切。校内研修をして、学校図書館を活用した授業改善を進めているところもある。
 - ・大事に考えているのは、市町が学校と連携して取り組むこと。
 - ・市町教育委員会が学校司書を設置する主体なので、県が呼びかけることはできるが、なかなか配置が進まない状況。これまでも言ってはきているが、市町に「学校司書をつけてほしい。」ということは今後もしっかりと伝えていきたい。
 - ・「こども としょかん」という意義を考えた時、重点のどれか1つだけをやってもダメで、3つともしっかりと進めないといけない。学校図書館だけがやるのではない。センター機能にも書いてあるが、ネットワークづくりを進めることが大事と考える。
- 松島
 - ・高校生は、普段忙しくて読書する時間がないので、読む時間が確保される一斉読書は、歓迎している高校生も多い。
 - ・授業での図書活利用については、各学校・学校図書館とも頑張っていたているが、W i - F i 等の設備面等の配備状況などの影響により学校によって差が大きい状況。
 - ・重点事項については、現行のものと比べてキャッチーな文言になったが、その代わり具体が見えにくくなっている。2の「ひとづくり」に注目されすぎていて、環境づくりが薄らいでいるようにも感じる。

3 閉会

小野田会長挨拶

- ・本日のお礼

事務局より

- ・本日のお礼
- ・10月に書面で素案を御確認いただくことについてのお願い
- ・第3回協議会日程調整票の提出についてのお願い